

令和4年度 文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

海外に赴く日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	株式会社インターカルト日本語学校
事業名	海外に赴く日本語教師【初任】研修
研修実施地域	全国
事業実施期間	令和4年9月～令和5年1月
研修受講者数	初任研修110名 担当講師育成研修 7名

研修報告の構成

1. 研修実施機関概要
2. 事業概要（目的・実施体制）
3. 研修の目的・ねらい
 - 3.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係
 - 3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）
 - 3.3. 研修実施体制
 - 3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報
 - 3.5. 研修の様子
 - 3.6. 研修前後のフォローアップ体制（学びを深めるサポート等）
 - 3.7. 評価
4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）
5. 成果と課題

Ⅰ. 研修実施機関概要

研修実施機関名：インターカルト日本語学校

1977年創立

(1977年 日本語教育事業・1978年 日本語教師養成事業)

【理念】

・Cross Cultural Communications

国、文化、言葉の違いを理解し、人と人との尊重し合える社会を創ります

・Japanese for everyone who needs it

日本語を必要とするすべての人のために、日本語教育の提供と支援をします

【主な事業】

・日本語教育事業・日本語教師養成事業・教育IT開発事業・教材の出版・学生寮の運営

【組織】

・[認証・評価]

・「日本語教育機関の第三者評価基準項目に適合する機関」認定(2016年)

・ISO29991「公式教育外の語学学習サービス」国際認証取得(2016年)

・[所属会議等] ・「日本語教育の質の維持向上の仕組みに関する有識者会議」委員

・「東京の地域日本語教育に係る調整会議」委員

・「台東区多文化共生推進プラン策定委員会」委員



東京都台東区台東2-20-9

<https://www.incul.com>

2. 事業概要（目的）

【事業の目的】

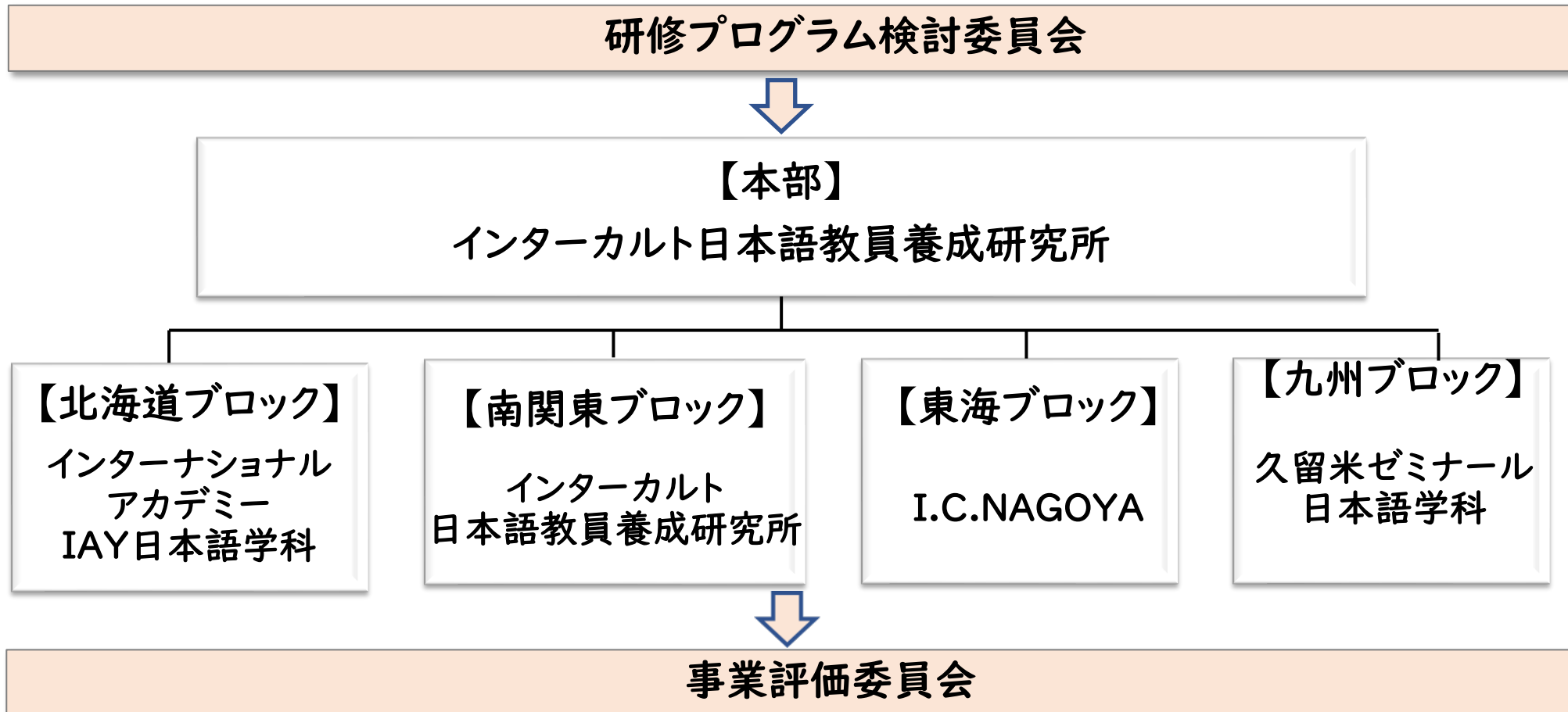
世界各国で求められている日本語教育の専門知識を有する人材を育成する研修プログラムを全国に普及すること

1. 異文化間理解や対応能力を持った人材の育成
2. 多様な文化や価値観を尊重し、必要に応じて寛容な態度がとれる人材の育成
3. 日本から赴く専門性を有したネイティブの教師であるがゆえの貢献ができる人材の輩出

2. 事業概要（実施体制）

【実施体制】・「研修」は4ブロック共同で実施。各ブロックに「ブロックリーダー」「事務担当」「教務担当」を配置し、横の連携を取りながら運営

・研修終了後の「セミナー」は「担当講師育成研修」として各ブロックが主催して実施



2. 事業概要

【取り組みの内容】

初任研修 (4ブロック共同で運営)

1. 内容検討、スケジュール作成
2. 講師への依頼、やり取り
3. 受講者募集、広報
4. 当日運営
5. 受講者レポート、課題確認



担当講師育成研修 (各ブロック主催セミナー)

1. 内容検討
2. 講師への依頼、やり取り
3. 受講者募集、広報
4. 当日運営
5. 受講者レポート確認
6. レポート提出

3. 研修の目的・ねらい

『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）』に準拠して行う

【目的】

- ・海外における日本語学習ニーズの高まりを受け、世界各地で求められている日本語教育の専門知識を有する人材を育成する。

【研修により育成したい人材の資質・能力】

- ・単なる言語教育者ではなく、多様な文化や価値観を受け入れ、日本語と日本文化を伝達できる、現地教師と協働し日本との橋渡しの役割を果たすことのできる自立した人材を育成する。

3. 研修の特徴Ⅰ（初任研修）

- ・各科目、「ビデオ授業」と「ライブ授業」を組み合わせで行う。
- ・「ビデオ授業」「ライブ授業」とも、研修期間中はいつでも見返すことができるようにすることで、さらに学びを深めることができる。

【受講の流れ】

- ①ビデオ授業（視聴）
・講師より課題提示



- ②レポート、
ビデオ授業の
質問記入



- ③ライブ授業
・課題について意見交換
・講師が質問に答える等



- ④レポート、
ライブ授業の
質問記入



- ⑤講師からの回答は
受講者全員で共有



3. 研修の特徴2（初任研修）

授業（ビデオ授業23コマ、ライブ授業28コマ）を大きく7つのカテゴリーに分けて行い、必要な知識、技能、態度を学ぶ

1. 海外の日本語教育を俯瞰する（全体的な知識を得る）	5
2. 海外で教えるという視点から、言語・教育に関わる知識を得る	12
3・海外の日本語教育を俯瞰する （各国の日本語教育事情、教育実践について知る）	21
4. 海外の多文化社会における言語使用と社会について考える	8
5. オンライン教育の可能性を知る	2
6. 海外での実務、及び関係者との連携	1
7. 振り返り	2

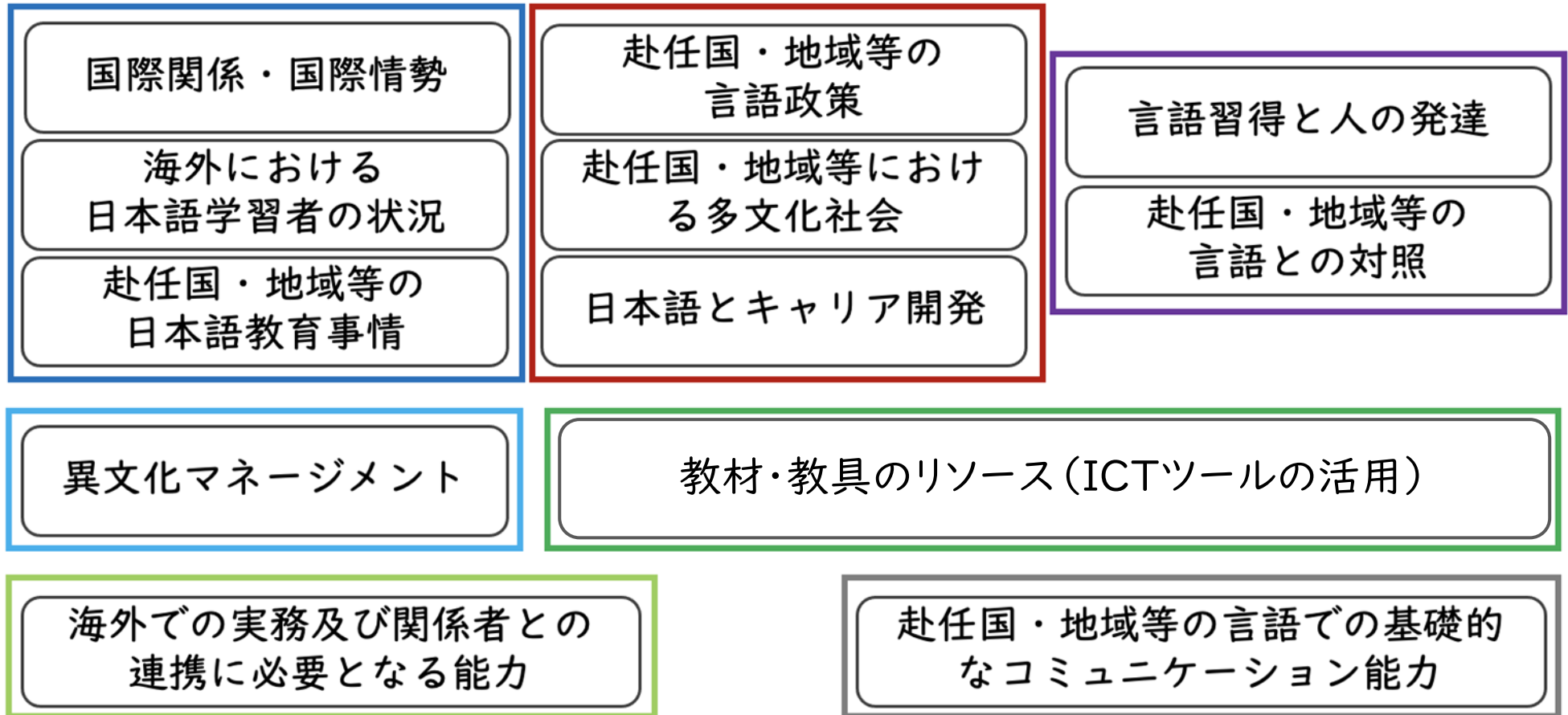
3.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係

【研修により育成したい人材の資質・能力】

自身が海外という異文化の環境に身を置くことになることから、異文化間理解や対応能力を持った人材を育成することが最重要事項となる。赴任地と日本との相違点について理解しながら多様な文化や価値観を尊重し、必要に応じて寛容な態度がとれるようになること、単なる言語教育者ではなく、多様な文化や価値観を受け入れ日本語と日本文化を伝達できる人材、現地教師と協働し日本との橋渡しの役割を果たすことのできる自立した人材を育成する。

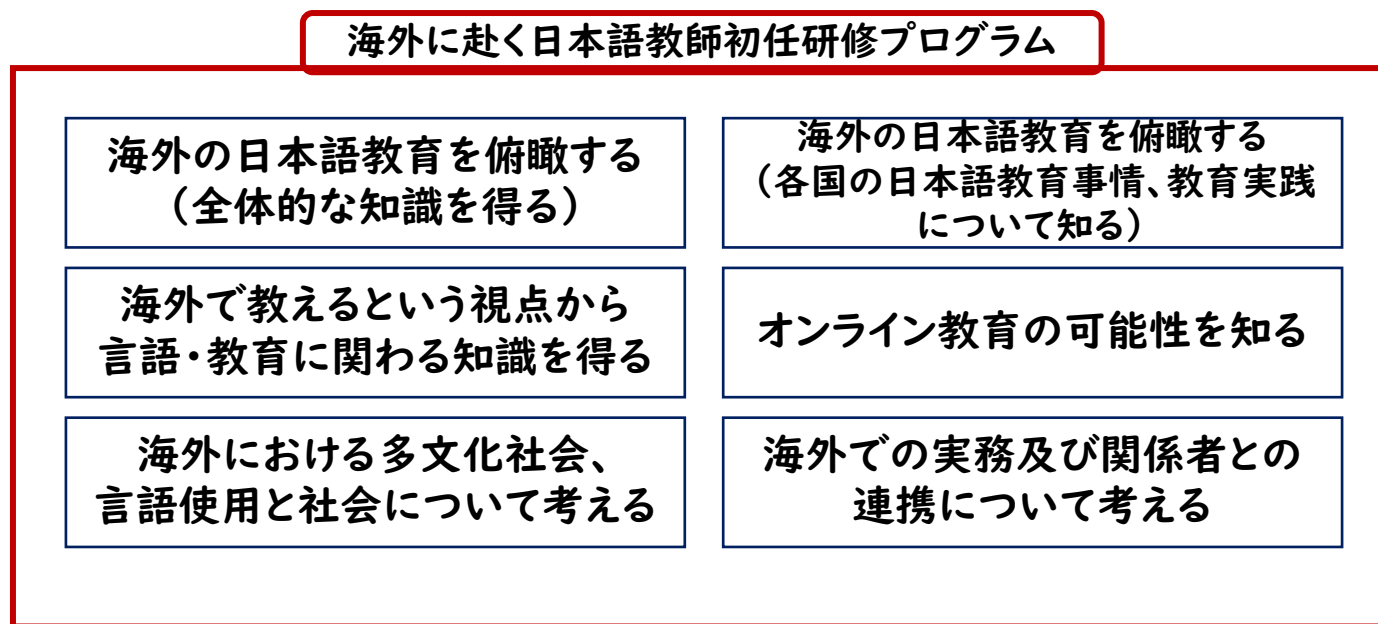
3.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係

海外に赴く日本語教師【初任】研修の教育課程編成の目安



3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

初任研修プログラムの全体構成図



育成の目標

- ①世界各地の多様な教育現場で活躍することのできる、日本語教育の専門知識を有する人材を育成する。
- ②単なる言語教育者ではなく、多様な文化や価値観を受け入れ、日本語と日本文化を伝達できる、現地教師と協働し日本との橋渡しの役割を果たすことのできる自立した人材を育成する。

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

9月10日-11月26日（ライブ毎週土曜日10:00-11:30、12:45、13:10） ビデオ23+ライブ28+課題3=54コマ

科目名（初任研修）	講師	ビデオ コマ数	ライブ コマ数	コマ数 合計
受講前オリエンテーション				
海外の日本語教育を俯瞰する （全体的な知識を得る）				
1. 国際関係 海外の日本語事情	西原鈴子	2	1	3
2. 海外で必要な能力	加藤早苗	0	2	2
海外で教えるという視点から言語・教育 に関わる知識を得る				
3. シラバスカリキュラム作成	久保田美子	1	2	3
4. 言語習得	大関浩美	1	1	2
5. 言語の構造	石原嘉人	1	1	2

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

科目名（初任研修）	講師	ビデオ コマ数	ライブ コマ数	コマ数 合計
6. 評価法	伊東祐郎	1	1	2
7. 異文化コミュニケーション	室田真由見	1	2	3
海外の日本語養育を俯瞰する （各国の日本語教育事情、教育実践について 知る）				
8. 日本語教育事情（アメリカ）	井上とも子	1	1	2
9. 日本語教育事情（ニュージーランド）	力丸真耶	1	1	2
10. 日本語教育事情（メキシコ）	山本英津子	1	1	2
11. 日本語教育事情（インド）	松木宣子	1	0	1

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

科目名（初任研修）	講師	ビデオ コマ数	ライブ コマ数	コマ数 合計
12. 日本語教育事情（中国）	笈川幸司	1	1	2
13. 日本語教育事情（マレーシア）	西尾亜希子	1	1	2
14. 日本語教育事情（インドネシア）	北野亜美	1	1	2
15. 日本語教育事情（ベトナム）	Phuong Thao	1	1	2
16. 日本語教育事情（タイ）	長谷川卓生	1	1	2
17. 日本語教育事情（イタリア）	西岡芳栄	2	0	2
日本語教育事情 ワークショップ	（教務担当）	0	2	2

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

科目名（初任研修）	講師	ビデオ コマ数	ライブ コマ数	コマ数 合計
海外の多文化社会における言語使用と社会について考える				
18. 海外における授業内アクティビティ	中條真弓	1	1	2
19. 海外における継承語としての日本語教育	カルダー淑子	1	1	2
20. 海外の大学が目指す日本語教育の未来（ベトナム）	矢島誠子 古田元夫 神田詩織	1	1	2
21. 海外における渡日前日本語教育の重要性（ネパール）	大和佐智子	1	1	2
オンライン教育の可能性を知る				
22. ICTツールの活用例	都築鉄平	0	2	2

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

科目名（初任研修）	講師	ビデオ コマ数	ライブ コマ数	コマ数 合計
海外での実務及び関係者との連携				
23. 海外での連携のために必要な能力	加藤早苗	1	0	1
振り返り				
24. 海外で一步を踏み出すために	加藤早苗	0	1	1
25. 海外で一步を踏み出すために ～研修からの学び～	（研修担当者全員）	0	1	1
レポート①日本語教育事情ワークショップ ②海外における授業内アクティビティを考える ③振り返り		0	0	3
ビデオ授業後とライブ授業受講後、毎回レ ポートを提出		23	28	

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

（初任研修）日本語教育事情

内容①赴任する際、知っておくべき教育制度、歴史、文化的背景

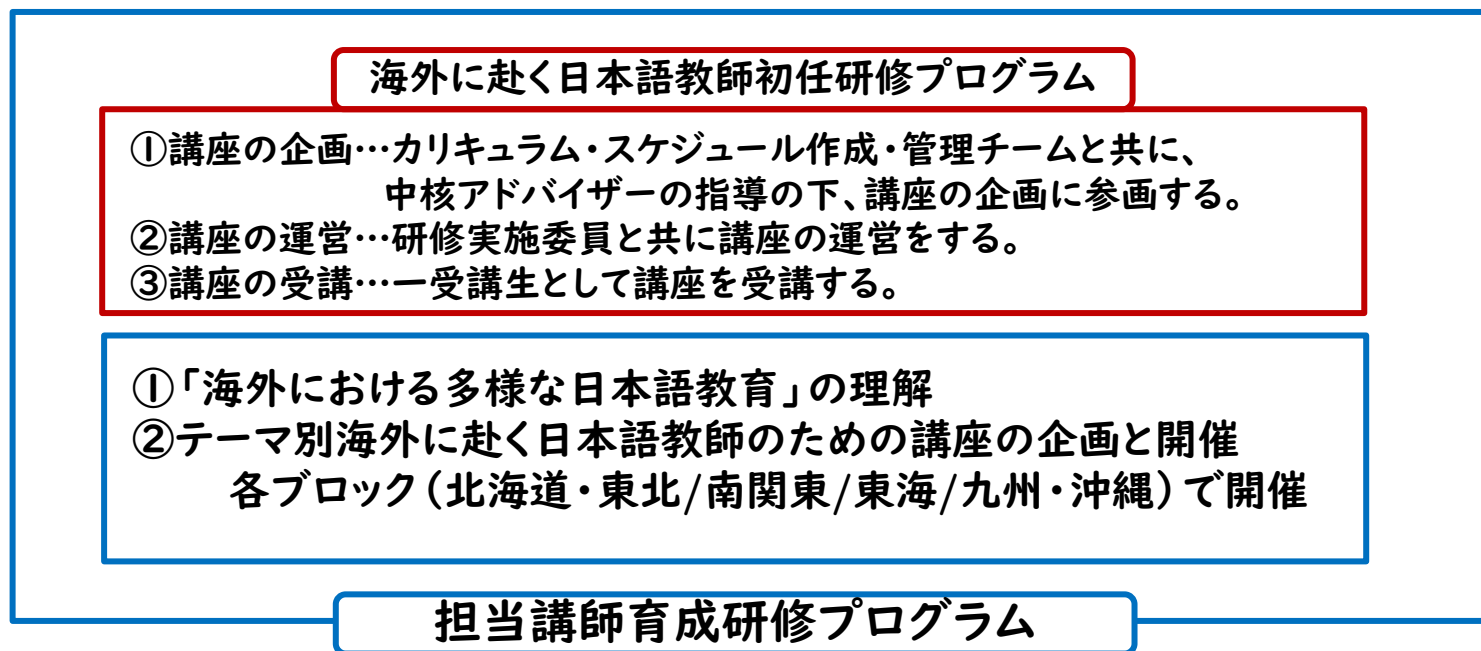
②国の日本語学習者数、学習目的など

③学校（機関）の指導計画、工夫されている教育方法、授業の様子、教師間の連携、日本語教師の生活など

	国	特徴
1	アメリカ	高校、ICT教育
2	ニュージーランド	大学
3	メキシコ	日本語学校
4	インド	技能実習生送り出し機関
5	中国	大学、発音指導
6	マレーシア	ビジネスマン、日本語学校立ち上げ
7	インドネシア	EPA
8	ベトナム	日本語学校、教師の生活
9	タイ	日本語学校経営者の視点
10	イタリア	日本語学校、サロン
	ワークショップ	受講者が行きたい国について調べ、発表 全体で共有

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

担当講師育成研修プログラムの全体構成図



育成の目標

- ① 「海外に赴く日本語教師に求められる資質・能力」の理解
- ② 研修実施のために必要な能力（企画力・ファシリテーション力）の育成
- ③ 海外に赴く日本語教師初任研修を自律的に企画し、運営できる能力の育成

3.2 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

担当講師育成研修

担当 ブロック	開催日時	内容（タイトル）	担当講師
東海 （名古屋）	2022/ 12/21 （土）	海外と日本をつなぐ日本語教育・学習の グローバルな未来 ～持続可能な連携を求めて～	宮崎里司 早稲田大学大学院 教授
南関東 （東京）	2023/ 1/14 （土）	海外における「継承語」としての日本語教育 ～私たちにできること/政策に臨むこと～	カルダー淑子 ジョンホプキンス 大学(アメリカ)講師 櫻井恵子（韓国）フックス清水美千代 （スイス）中島永倫子（南米）
九州 （久留米）	2023/ 1/21 （土）	海外の人流から読み解くこれからの日本 ～成長するアジアの若者と共に～	是川 タ 国立社会保障・人口問題 研究所 国際関係部部長 博士
北海道 （札幌）	2023/ 1/28 （土）	これから海外で教えるあなたへ ～今、求められるスキル・資質・心得を 考える～	山田智久 西南学院大学 教授 平田未季 北海道大学 准教授 副田理恵子 藤女子大学 特任准教授

3.2 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

担当講師育成研修

【東海ブロック担当】

令和4年度 文部省日本語教育人材の研修プログラム普及事業

2022年
12月17日(土)
14:00～15:30
対面のご参加者のみ
セミナー後に交流会を開催
(15:30～16:00)

海外に赴く
日本語教師【初任】研修
公開セミナー

受講料
無料

Hybrid-Flexible
On-line 対面

海外と日本をつなぐ
日本語教育・学習のグローバルな未来
～持続可能な連携を求めて～

21世紀も百年世紀が近づくなか、日本語教育の分野も新型コロナ対策に翻弄されてきましたが、対面とオンライン授業に対するメリット（強み）も大きく変わりつつあり、これらにより日本と海外が円滑に連携する可能性への関心が高まっています。この講座では、日本語教育のグローバルで持続可能な未来を築く上で、東海アジアのダイナミックな変遷を例に、日本語教師や学習者証、どのように連携を進めべきかを考えます。

●講師
宮崎 里司 教授 / 早稲田大学大学院日本語教育研究科 (Ph.D) 研究科長
専攻: (第二) 言語教育、言語教育政策、移民政策、サステイナビリティー、E-learning
【海外教員】1998年～1999年 オーストラリア国立モナッシュ大学日本語研究科講師
2004年～2005年 早稲田大学国際文化学部国際文化学専攻 助教授
2007年～2008年 大阪府立大学国際文化学部 助教授
2009年～2010年 早稲田大学国際文化学部 助教授

●参加対象
海外で日本語を教えることに興味を有する方（令和4年度文化庁/海外に働く日本語教師【初任】研修参加者を含む）
大学・専門学校・日本語学校の教職員、日本語研修ボランティア、海外からの人材協力を推進・検討している企業、
日本語教育機関の大学・大学教員、日本語教育を得意と連携しようとしている機関の職員

●開催形式 ハイフレックス型 / オンライン (Zoom) ・ 対面
【対面会場】名古屋国際センター 第一会議室 (5階) / 定員 50 名
〒458-8501 名古屋市中区栄区一丁目4番1号 (名古屋駅より徒歩7分、地下鉄有楽町線「国際センター」駅より徒歩1分)
※セミナー後、講師の宮崎里司教授に質問等ができる交流会を開催します。(15:30～16:00/対面のご参加者のみ)

受講お申込み
https://koic.jp/e/948605a3c68fa462532cd4f1c81300a/

【企画運営・お問い合わせ】 I.C.NAGOYA (アイシーナゴヤ) ☎ info@icn.jp
愛知県名古屋市中区栄区2-6-19 栄区栄ビル 1F TEL: 052-527-3378 (平日 9:00～18:00) 担当: 永岡

海外と日本をつなぐ日本語教育・学習のグローバルな未来
～持続可能な連携を求めて～

公開セミナー実施のトップバッターとして、内容の充実はもちろん、
広報活動にも注力した。

告知先: 25カ所 (以下、主な告知方法)

- ① 公的機関、大学、日本語教育機関等への案内
- ② 当校ならびに関連企業ホームページ、SNS等での情報発信
- ③ 当校ならびに関連企業で学ぶ学習者への案内

セミナー2日前には、申込者に向けて、3分程度の登壇講師のビデオ
メッセージを配信し、参加意欲を高めるよう工夫した。

<セミナー参加実績>

	対面	オンライン	合計
申込人数	34	207	241
参加人数	31	147	178
参加率 (%)	91.1	71.0	73.8

当日は、オンライン参加者の受講満足度を高める為、セミナー開始前
にウェビナーチャット機能を活用し、5分程度の事前案内を実施した。

3.2 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

担当講師育成研修

【南関東ブロック担当】

令和4年度 文化庁日本語教育人材の研修プログラム普及事業
公開セミナー

海外における「**継承語**」としての日本語教育
～私たちにできること～

受講料 無料



2023年1月14日（土）10:00～11:30（日本時間）
オンライン開催

講師 カルダー淑子
（アメリカ在住 ジョーンズ・ホプキンス大学国際問題高等学院講師）

日本にルーツのある海外在住の子どもたちを、グローバル人材、日本の財産ととらえ、彼らに対する日本語教育でも国語教育でもない「継承日本語」についてお話しいただきます。途中、世界各国でその教育に携わる先生方にも登場していただく予定です。
その上で、日本国内にも視野を広げ、海外にルーツを持つ子どもたちへの言葉の教育について、私たちにできることは何かについて考えます。

ファシリテーター 加藤 平隆（インターカルト日本語教員養成研究所 所長）

【企画運営・お問い合わせ】
インターカルト日本語教員養成研究所
東京都台東区台東2-20-9 TEL 03-5816-5019（平日 9:00-17:30）
yasei@incul.com www.incul.com 担当：橋・辻本

【お申し込み】
QRコード

海外における「継承語」としての日本語教育 ～私たちにできること～



【アメリカ】

海外における「継承語」としての日本語
～私たちにできること・政策に望むこと～

カルダー淑子先生

ジョーンズ・ホプキンス大学国際問題高等学院 講師
母語継承語バイリンガル教育学会海外継承日本語部会前代表



【韓国】

自助グループを中心に活動する現地の状況 韓国の場合
櫻井恵子先生

（韓国継承日本語教育研究会 代表）



【スイス】

スイス各州政府における継承語教育支援の実際

フックス清水美千代先生

（欧州日本語教師会 SIG継承日本語ネットワーク代表）



【中南米】

南米で日本を受け継ぐ人々のことば

中島永倫子先生

（国際交流基金専門家）

●日本国内の参加者 :86% →1都2府26県から143人

●海外からの参加者 :24% →各国から24人

アメリカ 7人	オーストラリア 3人	タイ 3人
マレーシア 2人	ニュージーランド 1人	タヒチ 1人
スロベニア 1人	イスラエル 1人	ラオス 1人

3.2 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

担当講師育成研修

【九州ブロック担当】

令和4年度 文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業
海外に赴く日本語教師【初任】研修公開セミナー 全講科目 対面 ZOOM

海外の人流から見る 日本留学のこれから

～成長するアジアの若者と共に～

2023年
1月21日(土)
14:00～15:30
JRE 天神タリスタビル 3F (Aホール)
福岡市中央区天神4丁目6-7

特別講演 経済動向についてお話しし、海外での生活を想定していただきます。
1990年代以降、中長期的に日本に暮らす外国人人口は増え続けています。コロナの時代を経て、今後、海外の人流はどのようなものになるのでしょうか。国際移住の歴史を社会人口学者の是川先生に国際移住の歴史のアーカイブを基に調査研究データから読み解いていただきます。成長するアジアと日本の留学生受け入れの現状や未来の可能性を知り、日本語教育のこれからについて考えます。

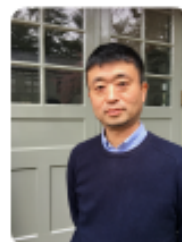
講師：是川 タ先生
社会学博士
国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長
OECD移民政策会合メンバー

受講を申し込む

全席定員・お申し込み

専門学校 久留米ゼミナール日本語学科
〒830-0033 福岡県久留米市天神町2-5-5
0942136-6060 nihongo@kuzemi.ac.jp

海外の人流から見る日本留学のこれから ～成長するアジアの若者と共に～



講師 是川 タ先生

社会学博士
国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長
OECD移民政策会合メンバー

【講師依頼の経緯】

新型コロナウイルスで一時的に世界の人流がストップしてしまった。日本語教育機関をはじめ、外国人に関わる全ての機関が今後の日本への人流がどのようになるのか不安に感じていた。そこで、是川先生をお招きし、データに基づいた海外の人流、これからの日本語教育や外国人受け入れがどうなるのかをお伺いしたいと思い講師依頼に至った。

【参加者の声】※終了後のアンケートより

- ・日本への入国希望者は減少傾向にあるのかと思っていましたが、今回のセミナーを受講させていただき、そうでないことがわかり、少し安心をしました。
- ・統計データをもとに現状を知れ、今後の先行きも知ることができ、日本語教育がより重要なものになっていくことがわかりました。日本語教育に関わる自分としては、一教師として何ができるかを考えて実践していきたいと思いました。
- ・就労（技能実習生、特定技能、技能人等）と日本語学習（日本語学校や留学等）の関係性、相関性がよりクリアに見えてきた。日本語教育をもっと広い視点で見たい。

【参加者】

申込者数 168名（オンライン150・対面18）
参加者数 121名（オンライン108・対面13）

3.2 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

担当講師育成研修

【北海道ブロック担当】

令和4年度 文化庁日本語教育人材の研修プログラム普及事業

海外に赴く日本語教師【初任】研修 公開セミナー

これから海外で教えるあなたへ
～今、求められるスキル・資質・心得を考える～

受講料 無料

2023年 1月28日 土 14:00-15:30

対面のご参加者のみ セミナー後に講師に質問等ができる交流会を開催（15:30～16:00）

学習者・教師を取り巻く環境が変化しつつある中、海外で日本語を教えるのに必要な資質・スキル・心得とは何か？海外での教育経験、日本語教師の送り出し経験を持つ講師が、海外での学びや学習リソースの活用に関する具体的な事例を紹介し、これから海外で教えるみなさんが変化に対応していく視点を磨き深めるきっかけとなることを目指しています。

講師



やまだ ともひさ
山田智久
西南学院大学
外国語学部国際文化学科
教授



ひらた みき
平田未季
北海道大学
教育学部国際文化学系
助教授



そえだ えりこ
副田恵理子
都立大学
日本語教育センター
副センター長

参加対象

海外で日本語を教えることに興味をお持ちの方（令和4年度文化庁/海外に赴く日本語教師【初任】研修修了者を含む）、大学・専門学校・日本語学校の教職員、日本語指導ボランティア、海外からの人材採用を実施・検討している企業、日本語教育専攻の大学生・大学院生、日本語教育を行政に活用しようとしている自治体

開催形式

ハイフレックス型 / オンライン（Zoom）・対面
対面の定員に達した場合、オンラインのご参加を案内させていただきます。

対面会場

TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通 ホール6 D /定員50名
〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西1丁目8番地2

受講お申込み

<https://forms.gle/6tXjgU3W6vKFSiX48>



企画運営

国際インターナショナルアカデミー
IAI日本語学校

snsato@myaiy.com
担当：佐藤

札幌市中央区南1条西4丁目5之出ビル6階 TEL: 011-281-5188（平日10時～19時）

『これから海外で教えるあなたへ
～今、求められるスキル・資質・心得を考える～』



本セミナーでは講師3名による多種多様な実体験を聴くことができ、限られた時間の中で充実したセミナーとなった。

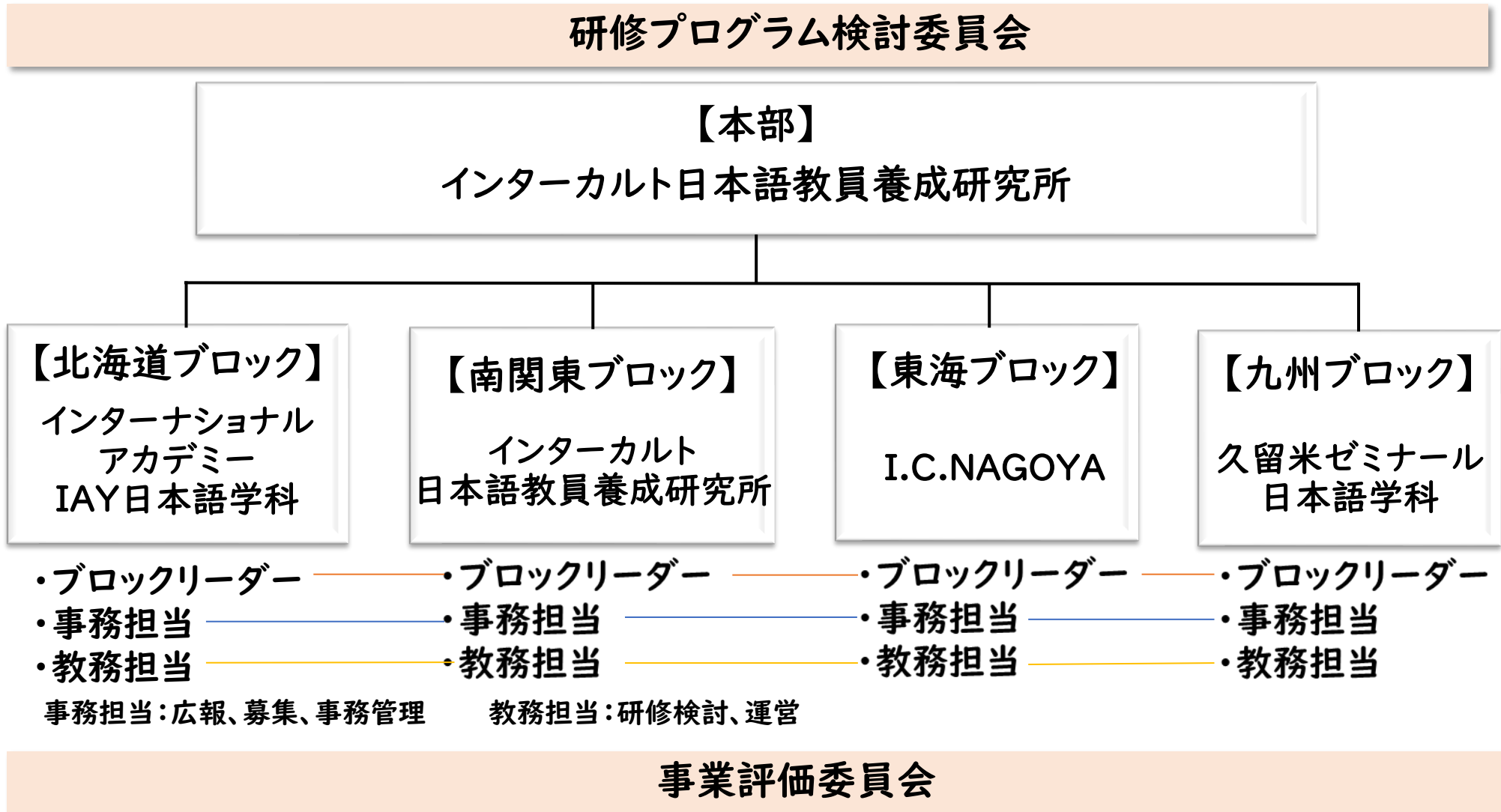
最後の質疑応答では、3名の講師が会場を回り参加者と直接対話をするにより、参加者の理解度が深まり更に満足度の高いセミナーとなった。



	対面	オンライン	合計
申込人数	30	162	192
参加人数	20	130	150
参加率(%)	72.0	80.2	78.1

3.3. 研修実施体制

【実施体制】



3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報

募集ちらし



令和4年度 文化庁日本語教育人材の研修プログラム普及事業
主催：インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所





海外で日本語を教えたい人へ

海外に赴く日本語教師【初任】研修

2022年 9月17日(土) 開講

ライブ授業+ビデオ授業 ライブ授業全11回 (9/17-11/26)

★初回オリエンテーション 9月10日10:00～
オリエンテーションは1時間程度を予定しております。

共催	北海道	南関東	中部	九州
	インターナショナルアカデミー IAV日本語学科	インターカルト 日本語学校	I.C.NAGOYA	久留米ゼミナール 日本語学科

受講料

15,000円(税込み)

対象

- ・日本語教員養成講座420時間修了、日本語教育能力検定試験合格、大学での日本語教育課程主・副専攻
- ・海外で教えた経験が0～3年程度の方(国内の経験年数は問いません)

修了者は文化庁ホームページに名前が掲載されます。(任意)

お問い合わせ

インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所

〒110-0016 東京都台東区2-20-9

TEL 03-5816-5019 WEB <https://www.incul.com/>

お申込みは
こちら



お申込み用QRコード

内容

この研修は、日本語教師が海外で教える際に求められる知識やスキルを学ぶことができる講座です。
海外で教えるための基礎知識、海外の日本語教育事情、ICTツールの活用例など、多彩な講師陣を迎えてお送りします。
すでに行くことが決まっている人にも、いつか行きたいと思っている人にも参考になる内容です。

日程

ライブ授業全11回(毎週土曜日) 10:00～11:30、又は～12:25

★初回オリエンテーション：9/10(10:00～) 時間は1時間程度を予定しております。

2022年

[9月] 9/17、9/24 [11月] 11/5、11/12、11/19、11/26

[10月] 10/1、10/8、10/15、10/22、10/29

上記日程の間に録画講義(全23コマ分)を見ていただきます。

★詳しいスケジュールは、HPをご覧ください。

講座一覧

- 全体的な知識：「国際関係・海外の日本語事情」「海外に必要な能力」
- 言語・教育に関わる知識：「言語習得」「言語の構造」「シラバス・カリキュラム作成」「評価法」「異文化コミュニケーション」「ICTツールの活用例」
- 日本語教育事情：「アメリカ・ニュージーランド・メキシコ・インド・中国・マレーシア・インドネシア・ベトナム・タイ・イタリア」
- テーマ別研究：「北海道発の日本語教育事情」「海外における継承語としての日本語教育」「海外の大学が目指す日本語教育の未来」「ネパールにおける渡日日本語教育の重要性」
- 「海外で連携のために必要な能力」「海外で一歩を踏み出すために」

講師

西原鈴子 (国際交流基金日本語国際センター元所長/日本語教育研究所理事)

伊東祐郎 (文化審議会日本語教育小委員会元主査/国際教養大学専門職大学院日本語教育実践領域代表)

加藤早苗 (文化審議会日本語教育小委員会元副主査/インターカルト日本語教員養成研究所所長)

大関浩美 (麗澤大学国際学部教授/インターカルト日本語教員養成研究所講師)

石原嘉人 (沖縄大学人文学部特任教授/インターカルト日本語教員養成研究所講師)

久保田美子 (早稲田大学日本語教育研究センター教授/インターカルト日本語教員養成研究所講師)

室田真由見 (千葉大学・東京医科歯科大学他非常勤講師/インターカルト日本語教員養成研究所講師)

井上とも子 (アメリカ メリーランド大学グローバルキャンパス非常勤准教授/モントレー高校教員)

力丸真耶 (ニュージーランド私立大学IPUNZ(Institute of the Pacific United)日本研究学科講師)

山本英津子 (メキシコ プエブラ日本語学校 常勤講師)

松木富子 (南インドの技能実習生送り出し機関にて日本語教育に携わる)

笠川幸司 (中国 湖南師範大学・成都理工大学など10大学で客員教授/他中国398大学で講演を行う)

西尾亜希子 (マレーシア A to Z Language Centre校長/在マレーシアの企業研修を広く担当)

北野亜美 (インドネシア PT. OS Selanjaya Indonesia 介護部門日本語教師/リーダー)

TRINH THI PHUONG TAO (ベトナム Saigon Language School校長/ベトナム人日本語教師の育成にも貢献)

長谷川卓生 (タイ Jeducation Center代表/10万人の日本ファンを集める日本博を主催)

西岡芳崇 (イタリア IL MULINO日本語講師責任者/ベネチア大学常勤講師/イタリアと日本を文化で繋ぐOchacaffeを展開)

カルテ・淑子 (ジョージ・ボブキンス大学 国際問題研究大学院 講師)

都築鉄平 (Semiosis 株式会社代表/言語科学博士)

※講師・講座名は変更になる場合があります

お申込み

下記URLが表面QRコードよりお申込みください。
<https://peatix.com/event/3307660>

締め切り

2022年9月8日(木)
希望者多数の場合は先着順となります。

3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報

- 【研修受講対象者】**
- ・日本語教師養成講座420時間修了、
 - ・日本語教育能力検定試験合格、
 - ・大学での日本語教育課程主・副専攻

上記いずれかの資格を持ち、
海外での教育経験が0～3年程度の者

【募集人員】 100名

【募集方法】 ホームページ、こくち～ず、訪問、DM等

【期間】 2022年7月1日～2022年9月8日

【広報先】 日本国内外の日本語教育機関

【応募】 103名 ※他、各ブロック教務担当者 8名

【選考基準】 有資格者であること 海外で日本語教師をしたいと考えていること

3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報

申し込みフォーム

有効なメールアドレス

このフォームではメールアドレスが収集されます。 [設定を変更](#)

お名前



記述式

記述式テキスト (短文回答)



必須

フリガナ *

記述式テキスト (短文回答)

所属 (機関名)

記述式テキスト (短文回答)

電話番号 *

記述式テキスト (短文回答)

資格 (複数選択可) *

☐ 日本語教師養成講座420時間

研修レポート

ビデオ授業とライブ授業終了後それぞれに記入

有効なメールアドレス

このフォームではメールアドレスが収集されます。 [設定を変更](#)

お名前



記述式

記述式テキスト (短文回答)



必須

メールアドレスをご記入ください。 *

記述式テキスト (短文回答)

この講座で学んだことをお書きください。 *

記述式テキスト (長文回答)

この講座の感想をお聞かせください。 *

記述式テキスト (長文回答)

本日の講座内容についてご質問がありましたらお書きください。講師・受講者全体で共有します。
※ご質問には一部お答えできないものもありますのでご了承ください。

記述式テキスト (長文回答)

3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報

初任研修受講者数 103名

地域

北海道	16
東北	2
関東	35
中部	15
関西	9
中四国	5
九州	12
海外(※1)	9

(※1)

スペイン・フランス
イタリア・イスラエル
インド・インドネシア
ベトナム・オーストラリア

所属

国内日本語学校	40
大学	10
専門学校	1
フリーランス	2
ボランティア	5
海外(※2)	5
国際交流協会	12
企業	6
所属なし	17

(※2)

日本語学校
大学・フリー・企業

日本語教師資格

有資格者	96
無資格者	7

無資格者の内訳

- ・養成講座受講中
- ・短期大学で日本語教育関係専攻
- ・保育士有資格 プライベートで
未就学児に教えている
- ・教員免許(中高国語科)

3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報

初任研修

修了要件

- ①有資格者
- ②出席率90%以上+毎回のレポート
- ③課題提出(評価C以上)

【課題の評価基準】A:目標を十分に達成し、かつ優秀な成果をおさめているB:目標を達成しているC:目標を最低限度達成しているF:不可

修了者 81%
(88名/110名)

担当講師育成研修

修了要件

- ①初任研修の履修
- ②初任研修の運営、レポート・課題確認
- ③ブロック別公開セミナーの企画、運営
- ④ブロック別公開セミナーのレポート提出

修了者 100%
(7名/7名)

3.5. 研修の様子

令和4年度 文化庁日本語教育人材の研修プログラム普及事業

「海外に赴く日本語教師【初任】研修」受講のご案内

初回オリエンテーションについて

9/10(土)に、研修全体についてのオリエンテーションを行います。

授業は行いませんが、受講にあたっての連絡事項や修了要件の説明など大切なご案内があります。

開講にあたり、受講者の皆様の交流の時間もありますので、ぜひご参加をお願いします。

欠席された方は、後日録画でご覧いただけます。

●日時:9/10(土) 10時~11時

●内容:

事務局からのご挨拶

研修概要、全体スケジュールについてのご説明

受講者同士の交流(グループに分かれて自己紹介など)

質疑応答

研修1週間前に、スケジュール、
オンデマンド教材「ビデオ授業」の
視聴方法、レポートなどについて
説明

受講者同士の交流も大事なポイント

初回オリエンテーション

課題について

課題は全3回です。詳細は授業でご案内します。

- 第1回 課題 『日本語教育事情ワークショップ』(提出期間:10/22~10/28)
- 第2回 課題 『海外における授業内アクティビティを考える』(提出期間:10/15~10/28)
- 第3回 課題 『振り返りレポート』(提出期間:11/26~12/10)

提出先メールアドレス: kaigai_info@incul.com

3.5. 研修の様子

録画授業

録画授業は、ライブ授業の
1週間前から視聴可能

【13-1】日本語教育事情（マレーシア）



ライブ授業

11月19日【22】ICTツールの活用例



ライブ授業

9月17日【2】海外で必要な能力-②



3.6. 研修前後のフォローアップ体制（学びを深めるサポート等）

- ①受講前のオリエンテーションで、受講者同士が交流を深める場の設定
- ②「ビデオ授業」とzoomを使用した「ライブ授業」を組み合わせた反転授業
- ③「ライブ授業」後も質問を受け付け、その質問と回答は受講者全員と共有する
- ④受講者の作成物（「各国の日本語教育事情」「授業内アクティビティ案」）は全員で共有し、お互い参考にすることができる
- ⑤「ビデオ授業」「ライブ授業」とも、研修修了まで録画を繰り返し視聴することができる
- ⑥各ブロックの公開セミナー（4回）の案内
- ⑦今後、各ブロックが行うセミナーの案内を希望者に送る

3.7. 評価

【評価方法】

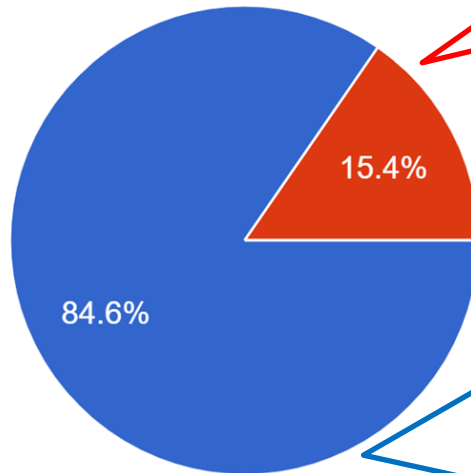
1. 研修受講者による自己評価・プログラム評価
各回の授業後アンケート、課題への取り組み、研修全体の振り返りレポートによる評価
2. 実施委員によるプログラム評価
各回の研修内容と研修受講者の成果、最終評価シートによる評価
3. 評価委員会による総合評価
1. 2の評価結果と委員が適宜行うプログラム参観による総合評価

3.7. 評価

受講者による自己評価・プログラム評価

研修内容は有意義でしたか。

78 件の回答



・仕事の都合上、ほとんどオンラインによる受講となってしまう、話し合いには参加することができなかった。しかし、講義は非常に参考になった

- 有意義だった
- まあまあ有意義だった
- あまり有意義ではなかった
- 有意義ではなかった

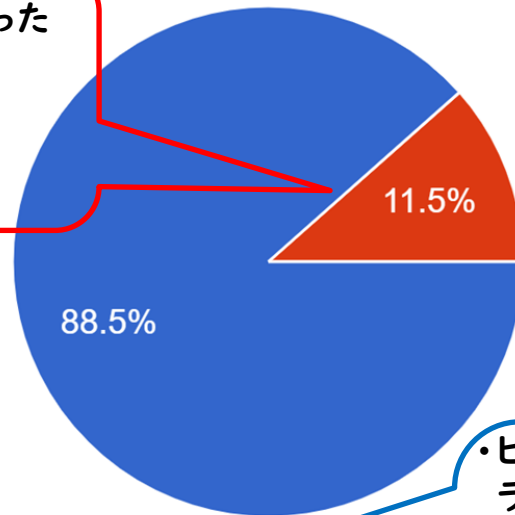
- ・様々な角度からの切り口で、学びが多かった
- ・多くの分野で活躍されている講師の方から貴重な話を聞いた
- ・課題を通して海外の日本語教育事情を調べるきっかけになった
- ・経験豊かな講師陣や受講生の皆さんと交流出来た
- ・アウトプットの機会も多くよかた

3.7. 評価

ビデオ授業とライブ授業の反転授業のスタイルはいかがでしたか。

78 件の回答

- ・事前に予習するのはよかったが結構大変だった
- ・ビデオ授業は集中力を保つことが難しかった



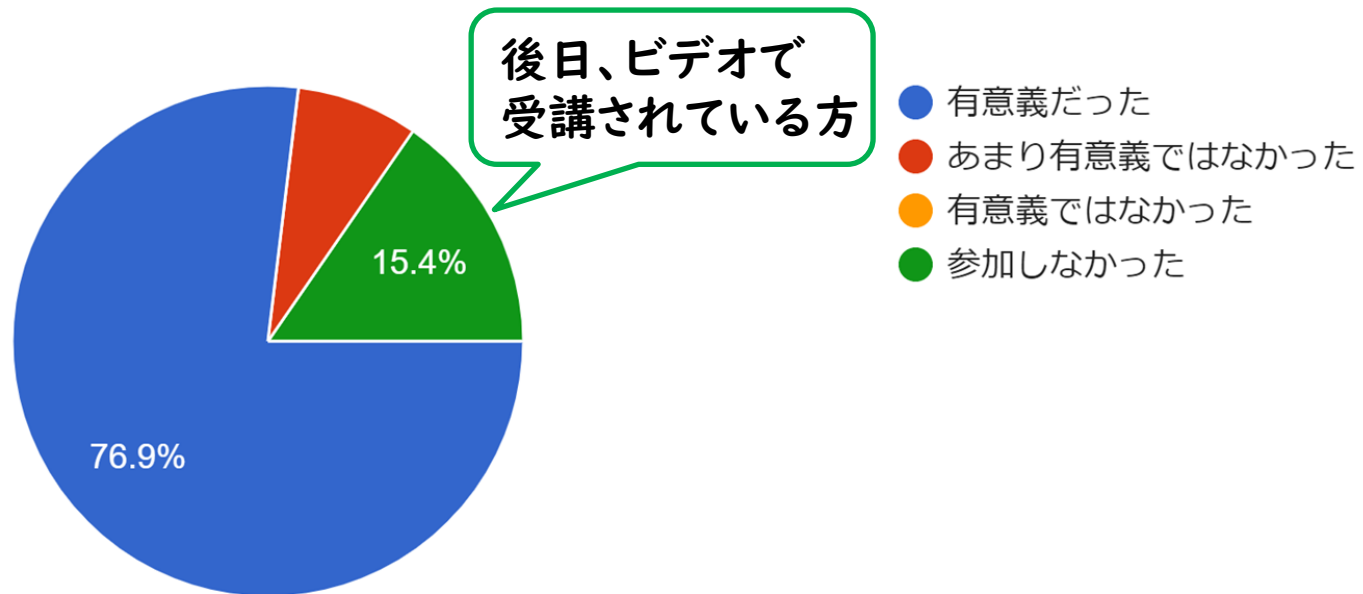
- 効果的だった
- あまり効果的ではなかった
- 効果的ではなかった

- ・ビデオ授業で課題や考えておくの良いことを提示していただき、ライブ授業でそれについて深く考察するスタイルが良かった
- ・事前にある程度の知識を入れていることで、ライブでの先生のお話がよりスムーズに入ってきた
- ・ビデオで予習し、ライブで振り返りと、ブレイクアウトルームでのディスカッションは刺激があった

3.7. 評価

ブレイクアウトルームでの活動はいかがでしたか。

78 件の回答



3.7. 評価

この研修で取り上げてほしかった内容

- ・海外に日本語教師を派遣している機関の話を聞きたかった
- ・10か国だったが、もっと多くの国を取り上げてほしかった（アフリカ、中東、南米、ロシア、北欧）
- ・模擬授業（オンラインで現地の学習者に）がしたかった
- ・ICTツールの活用（作成方法）をもっと学びたかった
- ・年少者教育についてもっと詳しく知りたかった

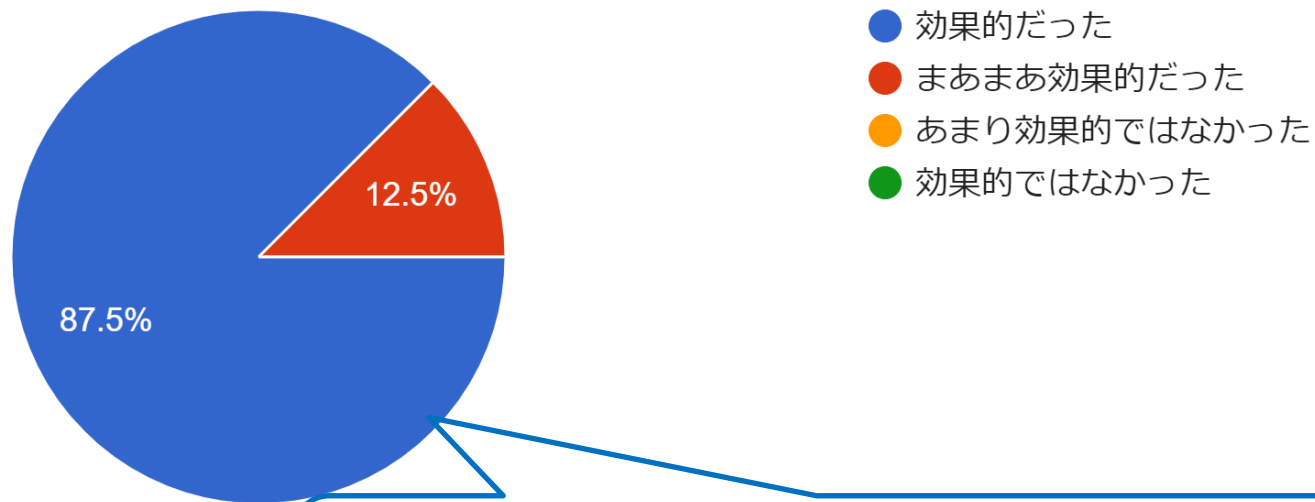
その他

- ・有意義だった
- ・受講してよかった
- ・海外で教えてみたいという夢がさらに強まった
- ・充実した内容だった
- ・質問の回答が早かった
- ・土曜日に仕事が入ることが多く、ライブにほとんど参加できず残念だった
- ・レポートが多かった

3.7. 評価

実施委員によるプログラム評価

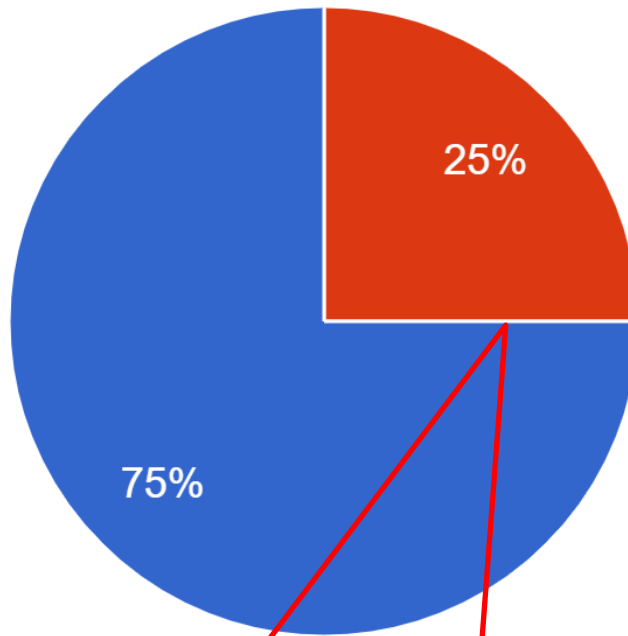
ビデオとライブの組み合わせの反転授業は、効果的だったと思いますか。



ビデオのレポートに講師への質問ができるようになっており、その一部をライブ授業で取り上げていることなど深い学びにつながっていた

3.7. 評価

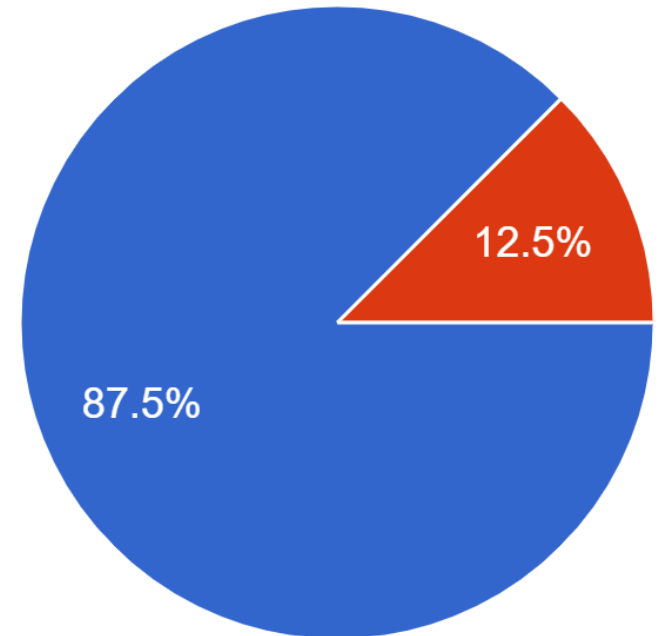
講座の回数は適切でしたか。



- 適切だった
- まあまあ適切だった
- あまり適切ではなかった
- 適切ではなかった

全体的な回数としては適切だと感じたが、
1週間に4本のビデオ講座が公開される
週は少々大変さを感じる

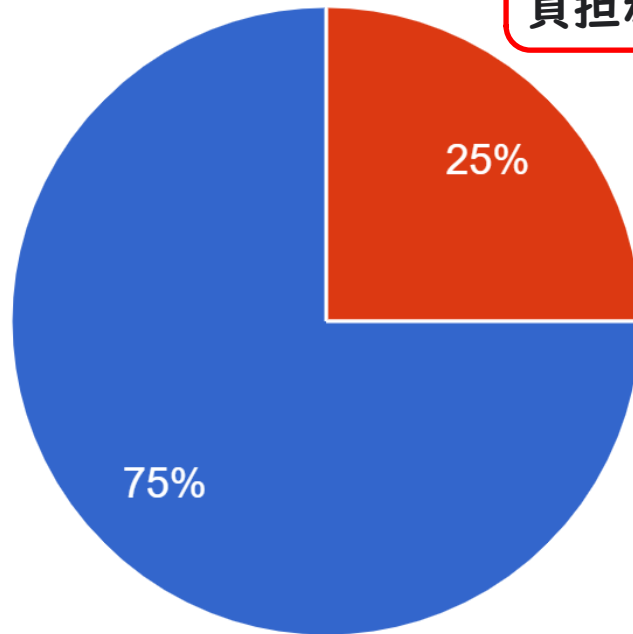
講座の期間は適切でしたか。



- 適切だった
- まあまあ適切だった
- あまり適切ではなかった
- 適切ではなかった

3.7. 評価

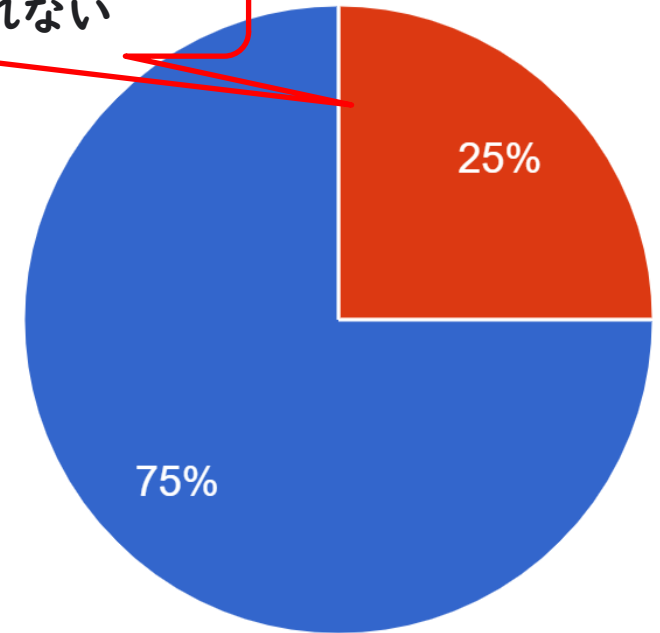
課題の量は適切でしたか。



- 適切だった
- まあまあ適切だった
- あまり適切ではなかった
- 適切ではなかった

受講者のレポートの回数は適切でしたか。

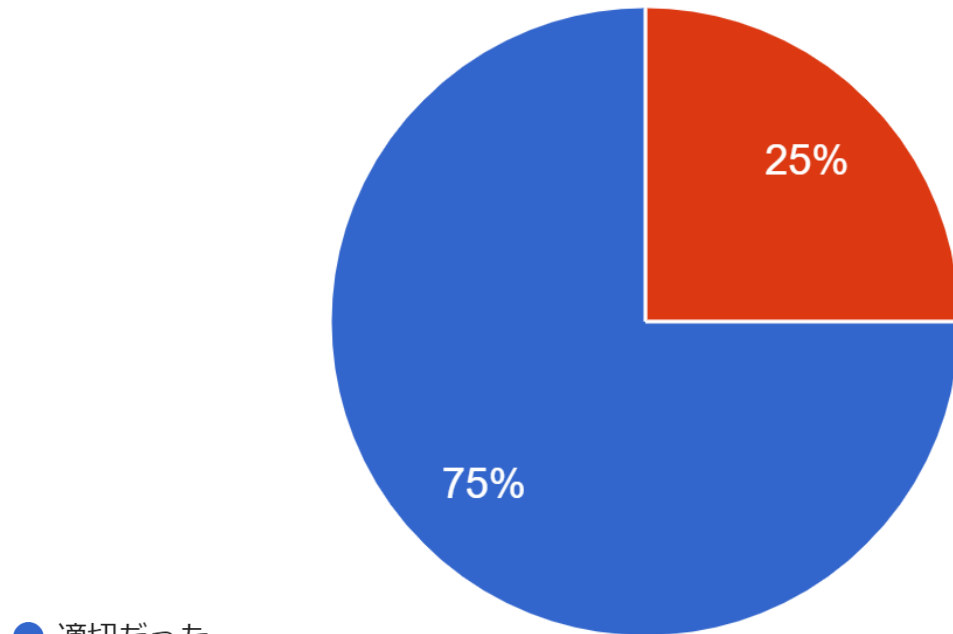
ものすごく丁寧に書く人にとっては負担が重かったかもしれない



- 適切だった
- まあまあ適切だった
- あまり適切ではなかった
- 適切ではなかった

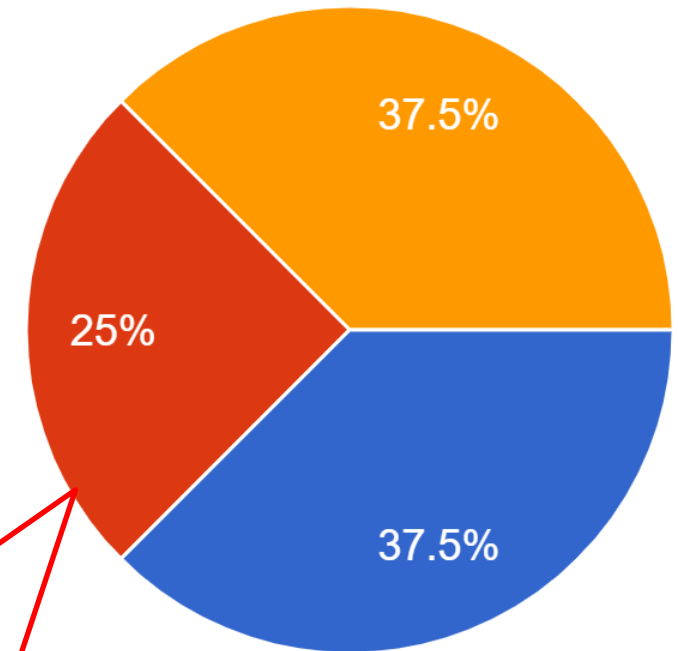
3.7. 評価

当日運営の人数は適切でしたか。



- 適切だった
- まあまあ適切だった
- あまり適切ではなかった
- 適切ではなかった

学習管理（課題提出、出席管理等）については適切でしたか。



- 適切だった
- まあまあ適切だった
- あまり適切ではなかった
- 適切ではなかった

**担当者が手入力で転記するため煩雑だった
受講者自身で課題提出状況を確認できるシステムがあれば、受講者も安心ができ、事務局の対応も少なくなるのではないか**

3.7. 評価

その他

- ・双方向の授業を45分で行うのは短すぎた
- ・講師の方と内容について、もう少しやり取りをしながら進めていけばよかった
- ・学校（会社）を超えて協働できたことは自分自身にとって大きな収穫だった
- ・講座の運営サイド側及び受講者側両方の体験ができ良かった

3.7. 評価

出席・評価シート

20-1	20-2	21-1	21-2	22	23	24						
ビデオ		ビデオ			ビデオ							
海外の大学が目標とする日本語教育の未修	海外の大学が目標とする日本語教育の未修	海外における渡日前日本語教育の未修	海外における渡日前日本語教育の未修	IGTTツールの活用例（研修先生）	海外での連携のために執務な連絡（研修先生）	海外で一歩を踏み出すために研修が	合計	出席率（％）	課題①	課題②	課題③	課題の評価
1	1	1	1	2	1	2	50	100	○	○	○	優
1	1	1	1	2	1	2	50	100	○優	○優	○優	優
1	1	1	1	2	1	2	49	98	○優	○優	○優	優
1	1	1	1	2	1	2	45	90	○優	○優	○優	優
1	1	1	1	2	1	2	50	100	○優	○優	○優	優

修了証書

修了証書

 殿

あなたは令和四年度 文化庁委託事業 日本語教育人材の研修プログラム普及事業 インターカルト日本語教員養成研究所主催 海外に赴く日本語教師【初任】研修において積極的に取り組み、全研修54単位時間を修了したのでこれを証します

令和4年12月27日

インターカルト日本語学校
日本語教員養成研究所
所長 加藤 早苗



4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）

【事業評価体制】

事業評価委員 ○：委員長

西原 鈴子	特定非営利活動法人日本語教育研究所 理事長
伊東 祐郎	国際教養大学専門職大学院日本語教育領域 代表
カルダー淑子	ジョンスホプキンス大学国際問題高等大学院 講師
○ 加藤 早苗	インターカルト日本語学校 学校長

【評価の観点と結果】

1. 研修体制 各ブロックのブロックリーダーの下に配置された事務担当、教務担当が、それぞれ横の連携を取りながら良好な協力体制で運営を行った。
2. 研修の実施
 - 〈募集〉・広報活動の時期、媒体等は適切で、目標を上回る103名の受講者を集めた。
 - 〈運営〉・受講者に対する事情の情報、課題の内容が問題なく共有され、講師に対しても適切に伝えることができた。
 - ・受講者の出席状況、課題の提出状況等が研修担当者間で問題なく共有されていた。
 - 〈実施〉・10ヶ国における日本語教育事情では、その国の特徴を活かした具体的な内容が、各国の講師により動画で示され、受講者にとって非常に有用なものであった。
3. 担当講師育成研修
各ブロックの育成研修受講者がリーダー、教務担当と連携しながら、企画、講師の決定、相談、広報、実施運営と、一つの研修を完結して行ったことにより、研修担当講師としての自覚と自信を得る結果となった。

5. 成果と課題

【初任研修】

成果

- ・講座を7つのカテゴリーに分けて行ったのは、今何を学んでいるかはっきりしてよかった
- ・10か国の日本語教育事情について様々な角度から学ぶことができた
- ・他校のスタッフが共同で運営することで様々な学びがあった

課題

- ・ライブ授業は、講師と受講者、受講者同士のやり取りがあるため、45分では時間が短かった
- ・教育実習については、110名が実習をし、振り返りができる場を確保することは難しく実施に至らなかったが、今後人数を絞って行うことも考えられる

【担当講師育成研修】

成果

- ・企画、運営をすべて各ブロックで行ったのは今後のために役に立った
- ・各ブロックで行ったとはいえ、お互い相談しながら行うことができた

課題

- ・来年度以降、各校が様々な研修を行い、普及すること

今回の事業で、初任研修の受講者、担当講師育成研修の受講者とも様々なことを学び、初任研修プログラムを全国に普及する第一歩になったと思われる。

今後も引き続き改善を重ね、普及に努めたい。